

図書館だより

2001.2.1

第22巻3号

通巻155号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

龍馬のごとく志半ばで、 凶刃に倒れた文の人

雪の日だった。
帝国憲法発布の日。
明治22（1889）年2月11日。

「じゃあ行こうか」
側近を伴って階段を下りようとした。
向こうから動くものを見た
と思った瞬間。
腹部に鈍い音がした。
血がじゅうたんを染めて行く。
ほとんど即死に近った。

その倒れた人物こそ、
日本の大学を創り、
東京音楽学校を建てた、
薩摩の人、森有礼だった。
時に42歳。
坂本龍馬が道半で凶刃に倒れたように、
森有礼も又、志半だった
すでに「小学唱歌」3編が
腹心伊沢修二によって世に出ている。

キリスト教徒だった森は
メーソンを日本に招くことで
東京音楽学校の礎を築いた。
彼らとすると対立した人物がいた。
肥後、熊本出身の儒者にして天皇の側近
元田永学ながまなであった。

十字架を背いた
洋楽に和の魂を入れた薩摩隼人

書彩声彩

童、夢みし

—「早春賦」と
その時代 ③

遠く南海をのぞむ故郷

へき霧消ゆる湊江の
舟に白し、朝の霜。
ただ水鳥の声はして
いまだ覚めず、岸の家。

『尋常小学唱歌』（五）
（大2・5）

- p.1. 書彩声彩 童、夢みし—「早春賦」とその時代③
- p.2.-5. ライブラリースペシャル
- p.6.-7. 書彩声彩（続）
- p.8. 2001年 年はじめの記

ライブラリースペシャル(1)

雨の神宮外苑

せい
生等もとより
生還を期せず

秀逸なドキュメント：昭和18年10月21日

往年の名アナウンサーと言えば、岡田実か、志村正順かと言われた。その志村正順氏が実況したのは、スポーツではなく、神宮外苑の「学徒出陣壮行会」であった。我々はその模様は、これまで、志村正順アナウンサーの声でのみ聴かされて来たが、世紀末2000年の夏、NHKスペシャルは初めて映像で伝えた。それは秀逸なドキュメントではなかったか。

思い定めたように、雨にぬれたトラックを軍靴の音高く、行進する青年学徒。それを取りまき、日の丸の旗を振ったのは大半が、都内の大学や専門学校に学ぶ女子学生たちだったことに驚きを覚えた。そこまでも、対照的な演出をするものかと。

それは戦局も大きくアメリカ側に傾いた、昭和18年10月21日の出来ごとである。

「雨の神宮外苑」と志村正順アナウンサーの歯切れの良い声だけが耳に残っているのと様を異にした、光景ではなかったか。

東大国文学科の生徒代表は宣哲を読みあげる。端々とした声の先に突如、声高く響くものがあった。「生等もとより生還を期せず」。それは、精一杯の胸の張りようだったろう。その言葉は心とはうらはらのものではあったろう。しかし、それは現実でもあったのだ。

当時、大学進学率は3%という。200万人の18歳人口とすればわずかに6万人。今日、若者たちは200万人の18歳人口に対して40% 80万人が進学したのは10年ほど前のことである。

布ばりの飛行機に搭乗して敵艦に体当たりした特攻、ジャングルで泥の中で煩死した青年。生きて帰れるとは誰一人思わなかったろう。

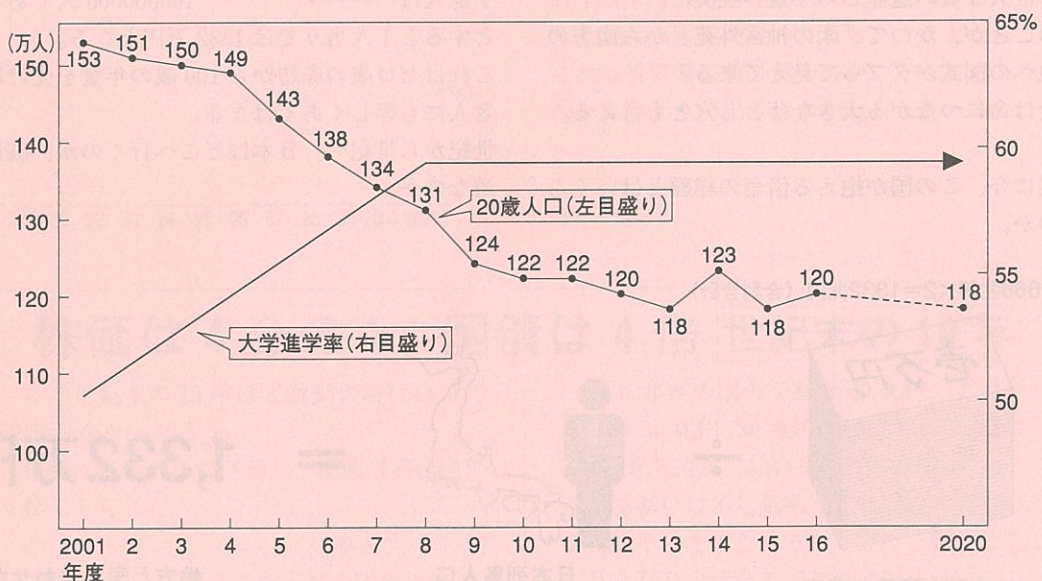
そうした青年の一人が帰還した。南津の島でただ一人生き抜いた人。20年ぶりとも30年振りとも、敗戦を知らずに闘いつづけた男の名を横井正一言った。彼の青春はジャングルの中の明け暮れであった。それは「雨の神宮外苑」の一人の奇跡の生還として幸福な一瞬だった。

そして今、少子化とパラサイトの時代

戦前の大学進学率は3%。
これに較らべて、半世紀を経た今大学進学率は40%。
年間約70万人が大学に進学する時代になった。
2001年に成人式を迎えた青年は157万人。
これは、20年後には118万人となる。
まさしく、少子化の時代。
他方で高齢化の時代。
現在、40%の大学進学率は20年後の2021年には、現在の進学者数、70万人とすれば、60%に上昇して行く。
かつては稀少な人口であった大学進学者数はごくあたりまえのことになる。それはかつて、車が稀少な価値であったように。
これが経済の発展であり、民主主義の進展というものであろう。
その上に、情報化社会が進行中である。
一国の首相が演説中に必らず挿入する「IT革命」である。
インターネットや衛星放送の進化を通して、教育

の方法のあり様は変化するかもしれない。
又、人的資源への投資がもっと拡大されて、全生涯のものとなることは確実であろう。
他方で、大学進学率の上昇は労働市場でのミスマッチ現象を起こしている。新しい知的欲望の習得が現状の労働力需要とのギャップや職業へのえり好みから「学卒未就職者」の増大をもたらしている。
2000年度の大学卒業生のうち就職しなかった学生は13万人にのぼるといふ。
この数字はもっと増大して行くだろう。
学徒出陣は当時の学生にとっては痛恨であったろう。
しかし今、豊かさから来る「パラサイト」現象がある。
職につかず家にいて親に養ってもらう時代である。
この文明病とどう戦うのか
青年には新しい試練の時代ともいえる。

2001-2020年 20歳人口と大学進学率(予想)



ライブラリースペシャル(2)

世紀を超えた負債

その先にある国家破産

そして、今、
日本はかつて歩いた道をたどっているかに見える。
荒敗の中からの復興。

そして、豊かな富を築いたかに見える。
それが油断というものなのだろう。
富におぼれてしまっは破局は目前にある。

かつてのアメリカの繁栄が1929年のウォール街の暗黒の日々をもたらしたように、
今や日本は大量の
「国債」残高つまり負債を背負いはじめ、
それが坂道ころげ落ちる雪だるまのように巨大
になって行く様は正気の沙汰とも思えない。

それでも、景気が回復するまでは、
「財政の健全化」は中絶しなければと施策を講ずる
人達は言う。

世紀末から世紀初頭への狭間で我々が見るもの
は、巨大な負の遺産という重い現実だ。
そのことが、かつて「雨の神宮外苑」から南方の
戦地への凶式がダブって見えて来る。
借金は命につながる大きな落とし穴とも言える。

現実に今、この国が抱える借金の総額とはいくら
なのか。

新聞やテレビが連日報道するところによれば
国と地方の借金は合計、
666兆円。

この数字は、ヨーロッパの迷信によれば「凶数」
なのである。

これはあくまでも「名目」にすぎない。

我々が家を建てる時に借りる、
2000万円の借金は実は合利合計ではなんと
4000万円になる。

これはだれもが知っている。

2000万円の家と思いきや4000万円の家なのだ。
これと同じことが、国の借金について言えること
を新聞やテレビは報道しない。

$666 \text{兆円} \times 2 = 1332 \text{兆円}$ が実際の借金ということ
になる。

これを1億人で割ると1人当たりの借金はゼロが多
すぎて

計算するのも不可能なほどになる。

1332兆円は → 1332000000000000円である
1億人は → 100000000人である。

とすると1人当りでは1332万円となる。

これはゼロ歳の赤坊から100歳の年金を受け取る
老人にも等しくあてはまる。

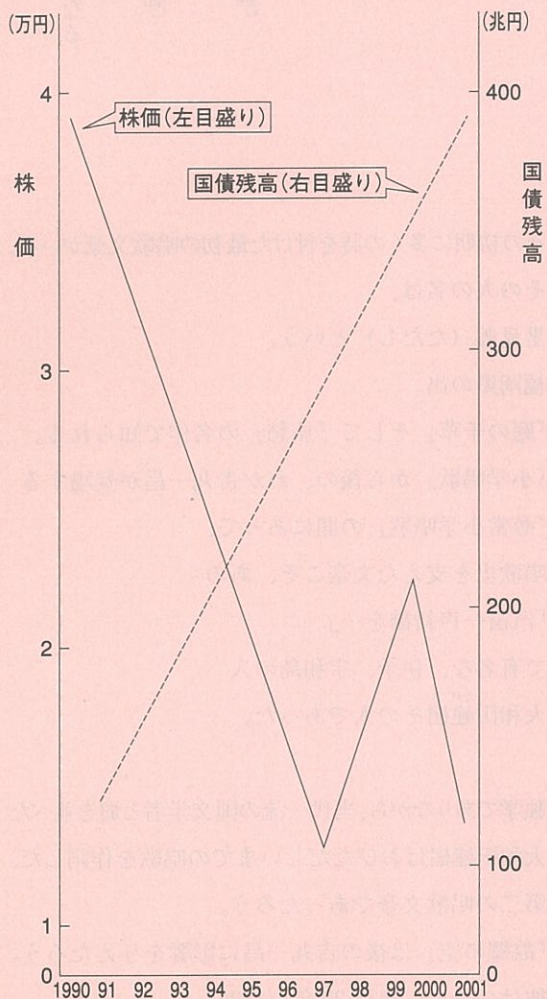
世紀から世紀へ。日本はどこへ行くのか、破局の
道なのか。

$666 \text{兆円} \times 2 = 1332 \text{兆円}$ (合利合計)



20世紀のトンネルを抜けると 雪だるま式の借金があった

国債残高と株価の推移 1990—2001



2001年度の国債残高は389兆円になるという。国の年間収入は2001年度で50兆円。さらに28兆円の国債、つまり借金で収入に組み込むと年間の国の予算は78兆円。このうち利払いには10兆円を充てると、残り68兆円が一般的な支出予算となる。かくて、国債残高は累積して来た。エコノミストも国の財政を主導する政治家も、口をそろえて、「今、借金を減らせば、せっかく上昇の気運が見えはじめた景気が又落ちこむことになる」。だから、もっともっと「借金」をして、「景気」を良くする必要がある、と言う。にもかかわらず、株価は急落しつづける。ここに来て、好調だったアメリカ経済に失速の懸念が見えはじめています。年初、グリーンズパンFRB議長はアメリカの公定歩合を突如下げて、ウォール街の市場を喜ばせたものの株価は又急速に下落しはじめた。原油の価格も10ドル台だった頃から較らべて30ドル台という高値を維持しようとしている。21世紀のトンネルを抜けると、そこには不況という大荒れの雪空が現われたということだろう。これは景気循環の必然なのか。どうすべきなのか。が一人ひとりの思考にゆだねられている。

株価は4分の1：国債は4倍 世紀末の10年

この世紀末の10年ほど激動の時代はこの50年来なかったろう。

株価は4分の1に下落し、国債残高は逆に4倍にもなった。

そごうやダイエーといった流通大手の倒産、ゼネコンへと銀行への大量の国債の投入。

2001年度の国の予算は80兆円。このうち税金は50兆円、30兆円は国債であり、このうち約10兆円が利払いにあてられる。それでもその支払いは不足気味であろう。まさにサラ金財政そのままだ。その一方で、貯えに頼られる利息はほとんどゼロに近い。

故郷を歌った 南海育ちの 唱歌文豪たち

明6 1873	明12 1879	明13 1880	明14 1881	明16 1883	明17 1884	明20 1887
吉丸一昌生る 森有礼「明六雑誌」	音楽取調掛設置	メーソン来日	『小学唱歌初篇』	『小学唱歌第二篇』	『小学唱歌第三篇』	東京音楽学校となる 「取調掛」

唱歌はその始めから
十字架を背負っていた、
と明治唱歌のミステリーを書いた
安田寛氏は言う。（『唱歌と十字架』音楽の友社）

メーソンとは何者なのか。
彼は伝道師であった、と言う。
しかも、十分音楽の心得を持つ。
神戸女学院の宣教師と接触を持ちつつ、
「讚美歌集」から「唱歌」に置きかえる仕事。
それが、メーソンの役割だったし、
森と伊沢の目的とするところだった。

「教育勅語」を起草し、
天皇の家庭教師だった儒学者、
元田永孚ながさねはこれを敵視したのは当然だったろう。
儒教とキリスト教、国家主義派と国際主義派の
暗闘の結末こそ、
「森暗殺」であったと安田氏は言う。

明治14（1881）年に初篇が発行され
明治16（1883）-17（1884）年に2-3篇が刊行されて
その初期の結実を見た、
『小学唱歌』は洋楽の中に
和の魂を入れた「唱歌のふるさと」とも言える。

その初期に多くの詩を付けた最初の唱歌文豪がいる。
その人の名は、
里見義（ただし）という。
福岡県の出。

『庭の千草』そして『旅愁』の名作で知られる。
『小学唱歌』から後の、わが吉丸一昌が登場する
『尋常小学唱歌』の間にあって、
唱歌史を支えた文豪こそ、あの
「汽笛一声新橋を…」
で有名な、伊予、宇和島の人
大和田建樹たけきその人であった。

独学でありながら、当代一流の国文学者と肩を並べた
大和田建樹はおびただしいまでの唱歌を作詞した、
第二の唱歌文豪であったろう。
『故郷の空』は後の吉丸一昌に影響を与えたらう。
彼はのちに、明治25年（1892）に、
東京音楽学校の教授となり
明治36年（1903）退官するまで和歌を教えた。

里見義と大和田建樹、
この二人の唱歌文豪こそ、
かつて正岡子規が「薩長土肥」の南国の田舎者が
日本を創ったと100年前に述べたように、
南海で育ち後の文豪、吉丸一昌の先達となったのだ。

明21 1888	明22 1889	明25 1892	明40 1907	明41 1908	大2 1913	大5 1916	大6 1917
『明治唱歌』の中に 「故郷の空」(大和田作詞)	森有礼暗殺さる(42) 「埴生の宿」(里見作詞)	大和田建樹(36) 東京音楽学校教授	「旅愁」(犬童球溪作詞)	吉丸一昌(41) 東京音楽学校教授	『尋常小学唱歌第五学年』 この中に「冬景色」載る	漱石没(49)	伊沢修二没(66) 吉丸一昌没(43)

唱歌ミステリー の迷を解く大胆 な仮説としての 「故郷」の作者

吉丸一昌の少し前、
東京音楽学校を出た犬童球溪は
里見義、大和田建樹に劣らない
「故郷」の歌を創った。
『旅愁』『故郷の廃家』
は名作として歌いつがれている。
彼、犬童球溪も又九州、熊本の出であった。
彼は3代目の唱歌文豪に属する。

わが吉丸一昌も又唱歌文豪であった。
「故郷を離るる歌」は
少年が中学に入って歌った時、ちよっぴりと
大人になったような気持にさせる歌である。
そこにはどの「故郷」の歌よりも気位が感じられる。
「早春賦」がそうであるように。

では高野辰之の「故郷」はどうか？
実は九州に信じ難いが、しかし興味ある仮説を
持つ人物がいる。
吉丸の故郷、白杵で「吉丸一昌」についての著書が
ある、吉田稔氏だ。
唯一の吉丸研究の専門家である彼の門をたたくと、
「私はあの『故郷』すらも、吉丸一昌の作と思って
いますよ」。
それは衝撃的な発言だった。

戦後になって、
マッカーサーの指令により、
「尋常小学唱歌」つまり「文部省唱歌」の
作者が判明しだした。
そこには当然、歴史上、軍国主義を鼓舞するような
作品を書かなかった人物の名が挙げられただろう。
長い間、作詞者不明の「文部省唱歌」
『故郷』は高野辰之の作とされ、
今日まで、その定説は変わることはなかった。
吉田氏ははっきりとそれを否定した。
しかも、それを吉丸一昌の作と決めつけた。
なるほど、それはありえるかもしれない。
大和田建樹がそうだったように、
唱歌文豪は多作にして、各作にあふれる。
モーツァルトの筆の速さがすべて高い美の水準を
保つごとく、吉丸の筆は流れるように進んだであろう。
そうすると、これまで見て来た当方の仮説
「鯉のほり」「海」のほかに、『茶摘』や辰之作とされる
『朧月夜』までが吉丸の筆になると考えないわけに
はいかない。
吉田氏は高い峰から一つの大膽な仮説を提示された。
方法論上の「下向法」=「演題法」に対して、
こちらは「上向法」=「帰納法」でこつこつ積みあ
げた努力がふきとんだ感があったか、
あるいは吉田氏の仮説ははるか上を行くもので
あったことに驚きを禁じえない。
そして、どこか南国を思わせる「冬景色」こそ吉丸一
昌の作となるという確信は一層高いものとなった。

白川教授のノーベル賞断想

——日本には欠落する知的評価のメガネ

これまで作れなかった青色のダイオードを一人別の道を行くことで作り上げた男は最近、カリフォルニア大学の教授となった。四国、愛媛生れの徳島大出の彼を、人は変人と言った。毎日が実験の明け暮れだった。それが作られたことで莫大な富を生んでも、上司の態度は冷た。待遇が改善されたとも思えなかった。彼の名は中村修二。ノーベル賞級の創造だった。実際、ノーベル賞の候補者が招かれて講演を依頼されるセミナーからも声がかかったが、それほど権威のあるものとは知らずに断った。日本には、こうした話は山ほどある。正当に知的創造を評価しえない伝統が日本にはある。

人はすべて点数によって換算される。学校教育から入試に至るまで、質的な創造の側面の評価は外国によってなされた時に、はじめて、それが、カリフォルニア大学の教授となって現われる。一日本の企業なら〇〇主任ぐらいのものであろう。その評価は天と地の違いということになる。ノーベル賞を受賞した、白川元筑波大学教授の出身大学は東京工業大学。人はこの大学を東大や京大から較らべて、予備校の偏差値において2流としか見ないだろう。外国人は彼をそうではない超一流の創造者とみなした。創造性を見るメガネが違っているわけである。独創性とは何か、それは人がかえりみることのないような道を頑固なまでに突きすすむ信念にほかならない。

図書館の動静

私立大学図書館協会東地区部会

本学図書館が事務局として運営に当たった、私立大学図書館協会東地区部会（平成12年度）は、2000年10月31日、札幌大学を会場に開催された。

出席者は東地区から64大学、123人が参加。テーマは電子図書館と大学図書館公開。本学からは西川館長、五十嵐部長、近松事務長が出席した。

▶退職

森紀恵さんは2000年12月末日を以って退職しました。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.22 No.3 (通巻155号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目 ☎(011)841-1161 本館内線 270-275・279・129 工学部内線 813・814 印刷所: ㈱アイワード